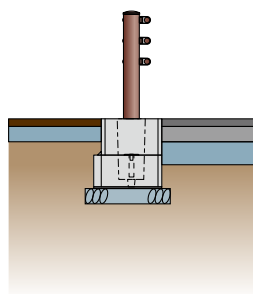


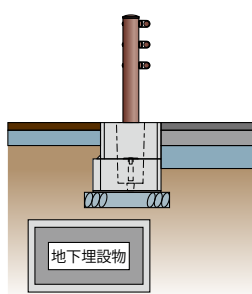
特 長

- 歩道と車道との分離部における車両用防護柵基礎として、連続基礎を構築します。
- プレキャスト製品のため、現場打ち連続基礎に比べ、型枠の設置やコンクリートの養生に要する時間を短縮でき、工期短縮が図れます。
- 従来の現場打ち連続基礎に比べて小断面のため、道路幅員を有効に活用できます。
- 施工延長に応じた規格を5種類用意しておりますので、経済的な断面の選定が可能です。
- 製品の連結部は連結用部材を用いたボルト固定のため、取替が容易に行えます。
- 曲線施工にも対応できます（内カーブ：R=11m、外カーブ：R=13m）。
- 車両用防護柵標準仕様・同解説（平成16年3月、社団法人日本道路協会）、防護柵の設置基準・同解説（平成20年1月、社団法人日本道路協会）に準じております。

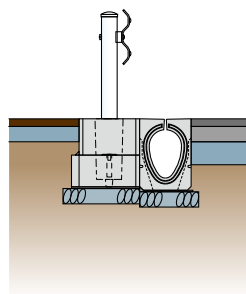
■歩車道分離帯に使用



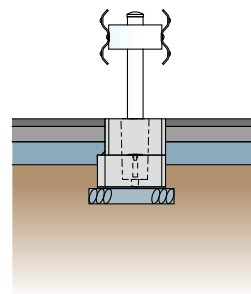
■地下埋設物等がある場合に使用



■側溝と併用して使用



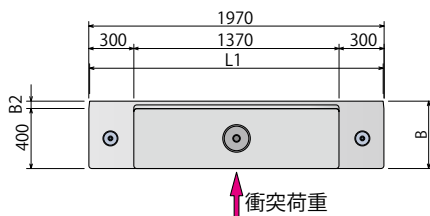
■中央分離帯に使用



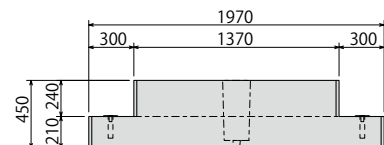
製品形状

標準用

平面図



正面図



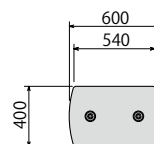
寸法表

呼び名 (連結延長)	各部寸法 (mm)			参考質量 (kg)
	B	B2	L1	
BC30	400	0	1970	674
BC25	450	50	1960	724
BC20	500	100	1950	771
BC15	600	200	1930	867
BC10	750	350	1900	1008

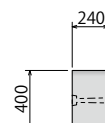
連結部材

参考重量 130kg

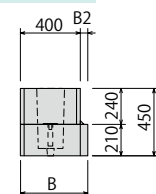
平面図



側面図



側面図

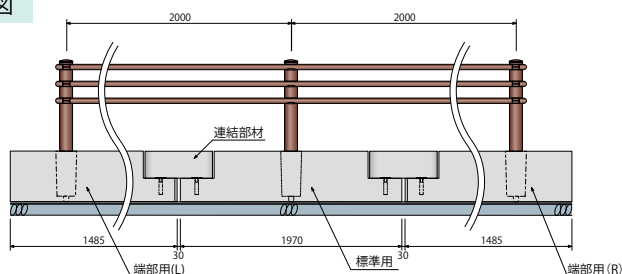


○中央分離帯に使用する場合の注意事項

※中央分離帯に使用する場合の必要連結延長は、下表の通りとなります。

呼び名	必要連結延長
BCm30	30m以上
BCm25	25m以上
BCm22	22m以上
BCm18	18m以上
BCm14	14m以上

組合せ図



施工歩掛り

(10m当り)

名 称	単 位	数 量	適 要
世 話 役	人	0.14	
特殊作業員	人	0.14	
普通作業員	人	0.53	
ラフテレーンクレーン	日	0.14	4.9 t 吊り
諸雑費	%	4	

(注) 諸雑費は、労務費・ラフテレーンクレーン賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

適用条件

B種およびC種のたわみ性防護柵基礎に利用できます。

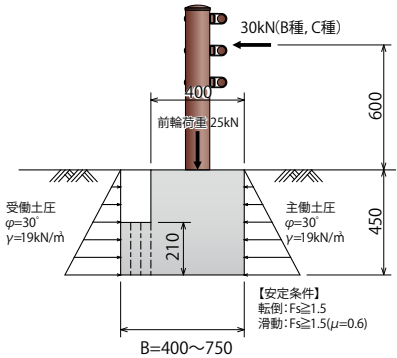
道路の区分	設計速度	一般区間	重大な被害が発生する恐れがある区間
高速自動車国道	80km/h以上	—	—
自動車専用道路	60km/h以下	—	—
その他の道路	60km/h以上	適用可 (B種用)	—
	50km/h以下	適用可 (C種用)	適用可 (B種用※)

※設計速度40km/h以下での道路では、C種用の防護柵を使用することができます。

適用可 (B種用※) : 適用範囲

設計条件

- 衝突荷重 $P=30\text{kN}$ (B種, C種)
- 衝突高さ $H_p=0.60\text{m}$
- 摩擦係数 $\mu=0.6$
- 単位体積重量 $\gamma=19\text{kN/m}^3$
- せん断抵抗角 $\phi=30^\circ$
※受働土圧考慮
- 転倒安全率 1.5以上
- 滑動安全率 1.5以上
- 支持力 必要支持力以上



※適用基準書：車両用防護柵標準仕様・同解説（平成16年3月），防護柵の設置基準・同解説（平成20年1月）

適用範囲

歩車道分離帯など、製品前面(車道とは反対側)を埋め戻す場合のみ使用可能です。
※路肩部や擁壁上部など、製品前面を埋め戻さない場合には、「プレガードII」をご使用ください。

